

海外安全対策情報（令和5年（2023年）1～3月期）

1 治安情勢・一般犯罪の傾向

(1) NSW州

犯罪全般について、コロナ禍以前の発生率と比較すると以前として低水準にあるものの、1年、3ヶ月といった短期で比較すると重点13罪種の一部でも増加傾向が見られるようになってきている。

また、地域別にみると顕著な増加傾向にある罪種もあることから十分な注意が必要である。

なお、顕著な犯罪の増加傾向が認められる地域は以下のとおり。

○シドニー地域

City and Inner South：窃盗（店舗対象）（+41.2%）

Eastern Suburbs：強制わいせつ（+30.0%）、窃盗（店舗対象）（+53.5%）

Outer South West：窃盗（店舗対象）（+40.5%）

Parramatta：建造物侵入（+44.5%）、窃盗（店舗対象）（+43.2%）

Ryde：住居侵入（+45.7%）、窃盗（乗物盗）（+65.3%）

South West：窃盗（店舗対象）（+45.9%）

○Coffs Harbour - Grafton

窃盗（乗物盗）（+46.0%）、窃盗（車上狙い）（+32.5%）、窃盗（店舗対象）（+49.5%）

○Far West and Orana

窃盗（乗物盗）（+39.2%）、窃盗（車上狙い）（+34.5%）

○Murray

建造物侵入（+34.4%）

○Riverina

窃盗（乗物盗）（+39.6%）、窃盗（車上狙い）（+33.4%）、窃盗（店舗対象）（+35.2%）

(2) 北部準州

治安情勢は安定しているが、政府によるコロナ規制の緩和に伴い、ほとんどの罪種で犯罪発生率が増加傾向にある。特に侵入窃盗や乗物盗の増加率が20%を超えており、自宅や車を離れる際は短時間でもこまめに施錠するなどの防犯対策を徹底する必要がある。

2 邦人被害

今年に入り暴力的なデモの発生はみられないものの、過去には警官隊との衝突にまで発展するなど暴力的な事態に発展したケースも少なからずあることから、デモを認知した場合には速やか離れる等の注意が必要である。

このほか、最近では留学生やワーキングホリデーとして訪豪する方など、特に訪豪間もない邦人からの住宅契約に関する詐欺被害、またはトラブル

に関する相談等が増加傾向にある。

3 テロ・爆弾事件発生状況

最近ではシドニーでのテロの発生はないが、一昨年12月にはIS（イスラム国）の影響を受けたシドニー郊外在住の男がテロ関連の罪で逮捕されるなど、当地におけるテロの潜在的脅威は存在している。また本年4月中はイスラム教徒が日の出から日没まで断食を行うラマダン月に当たるところ、毎年、このラマダン月前後に世界中でテロが多発しており、特に人の集まる場所におけるテロの可能性について警戒を要する。

4 誘拐・脅迫事件発生状況

特段注意を要する事件・情報は認知していない。

5 日本企業の安全に関わる諸問題

特段注意を要する動向は認知していないものの、令和2年（2020年）中、シドニー市内において、我が国に対する抗議デモが2件（慰安婦問題、反イルカ漁）行われており、これら団体の動向等について引き続き注意を要する。

※統計は、NSW州犯罪統計局及び北部準州警察の公表に基づく（統計期間：2022年1月から2022年12月までの1年間（北部準州は2022年2月から2023年1月までの1年間）と前年同期との増減率）。